



万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japanese Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会（ISS/SIC）日本支部
〒213-8507 神奈川県川崎市高津区溝口3-8-3
帝京大学医学部附属 溝口病院外科
TEL：044-844-3333（内線3223）FAX：044-844-3222
発行者：山 川 達 郎
編集責任：万国外科学会（ISS/SIC）日本支部広報担当委員・
村田宣夫（帝京大学溝口病院外科）
E-mail：nmurata@med.teikyo-u.ac.jp
印刷：株式会社 dig TEL:03-3551-3060
年2回発行1995年4月創刊

International Surgical Week, 2011 開催に向けて

万国外科学会日本支部長

(ISS/SIC Japan, Chapter National Delegate)

山 川 達 郎

帝京大学医学部名誉教授・京浜総合病院院長



2003年は、思えば、色々な出来事があった1年でありました。経済不況が進展する中で、今も続くIRAQS戦争が勃発し、さらにはSARS、BSEや鳥インフルエンザ問題など、不幸な事件が相次いで発生いたしました。そのため、我々が期待していたBangkokでのInternational Surgical Week (ISW) 2003の開催も突如、中止となってしまいました。長い間、成功にむけて努力し、開催を心待ちにしていたタイの友人には、本当に晴天の霹靂であったに違いありません。心からの同情を申し上げる次第です。

さて、去る2003年10月1日、ChicagoにおけるClinical Congress of American College of Surgeons時に開催されたISS/SICのExecutive Councilor Meeting (ECM)において、前回の支部総会でご報告いたしましたように、それまでISS/SICのPresidentであったSir Peter J. Morrisに代わって、新しいPresidentにProfessor J. Rüger Siewertが、また同時に、慶応義塾大学の北島政樹教授がPresident-electに正式に任命されました。これにより次回のDurbanにおけるISWは、今年のBangkok meetingで会長を勤めるはずであったProfessor J. Rüger Siewertが変則的ではありますが、会長をつとめることが決定されたわけであります。従いまして、Durban MeetingでProfessor J. Rüger Siewertの会長としての任期は満了となり、代わって北島政樹教授が会長に選出されて、2007年のMontreal Meetingを主催されることになります。私ども、ISS/SIC日本支部会にとって、大変うれしい出来事であり、これを日本支部としてこれをよい方向に利用しないという手はないと思います。

最近、お手元にとどけられたISS/SICのNewsに、ChicagoでのISS/SICのECMのminuteが報告されておりました。それによりますと、2011年に再度、アジアで開催されることが理事全員に承認されていると記され、さらに日本がこれまでその招致に極めて強い熱意を示してきた実績が記載されています。しかし他のアジアの国Singapore, Thailand, South Korea, Chinaなども立候補する可能性があることも追記されています。

一方、ISWの招致を希望するChapterは、招致したい年度の5～6年前にその意思があることをPresidentに先ず表命すること、および4年前のISW時に開催されるECMで最終的に招致国を決定することが明記されています。したがって日本支部会は、これまで2009年にISWの招致を考えていましたが、ここで2011年に変更する意思を明確に表明して、北島正樹教授が会長を勤められるMontreal Meetingでの決定をまつのが最善の方策ではないかと思っています。いずれにいたしましても、もし2011年にISWを招致するとしますと、日本支部としては、早急に会長を決定して準備委員会を発足させる必要があります。会員諸兄のご協力を心からお願いしてやみません。

またExecutive Councilor Meetingのminuteで、Secretary General ISS/SICのProf. Felix Harderは、Durban Meetingの準備状況について報告しています。それによりますと、Durbanは、すばらしい海岸もさることながら、会場、宿泊施設、観光など全ての点でCape Townよりも優れ、ことにAfricaならではのWildlife Game Parkはsensationalなものであったと報じています。日本支部会としては、ISS/SICのFormer Presidentであられる出月康夫名誉教授が名誉会員に推挙されること、および北島政樹現President-Electがこの会でPresidentに指名されるというBig eventが予定されておりますし、またISW招致のためのBig Campaignをする必要があります。Durbanは日本からは最も遠いところではありますが、機会がなければいけないところでもありますので、会員諸兄には是非参加してほしいと思います。また会員を増やす必要がありますので、日本支部長として是非若い先生方を会員にご推薦いただければ幸甚に存じます。



国際会議の付加価値？

横浜市立大学大学院医学研究科
消化器病態外科学

嶋田 紘

昨年10月に行われたISSの理事会で2005年から2007年の会長に慶應義塾大学の北島政樹教授が決定したとの報を聞き、出月康夫名誉会長に続く快挙と喜んでおります。また近い将来国際的に最も伝統のあるISSを日本で開催される予定だと聞き誠に慶ばしいことと同時に、国際学会における日本の役割が益々重要になってきたと意を強くしております。

さて、はからずも私は本年12月8日から11日に、第19回国際消化器外科会議 (ISDS) を横浜でお世話することになりました。本会議はISSと同時に開催の時期もあったようですが、主体性の問題からISSは奇数年、ISDSは偶数年になったといわれております。今回はISSも含めた国際会議の雑感をお話させていただきます。

第7回のISDS (IHICID)は1982年に慈恵会医科大名誉教授の故長尾房大先生が東京で開催されています。卒後10年前後であった私はポスター発表という名ばかりの参加であったことを覚えています。その後私はこの学会事務局長の青木照明名誉教授が監修された「国際医学会のための英会話」を

携えて、国際学会に参加させて頂きました。国際学会では外国の文化に直接触れることが出来るばかりではなく、外国の参加者と学術的なことやそれぞれのお国の自慢話も聞くことが出来大変楽しく、友人も沢山出来ました。

国内学会では話の出来ない“偉い先生”でも不思議と会話が弾み、その縁で親交が始まることも多いようです。また教室の外国との共同研究は学会の交流が契機になったものが多いと思います。

多くの国際学会へ参加させて頂きましたが、それぞれのお国柄や地方に対しての感想を持っていますので少しご紹介させていただきます。尚、これはあくまで私のspeculationであることをお許しください。

アメリカの学会はAmericanと名前がついているのもかわらず、国際学会よりも国際的でscientific valueも高い。しかし一方では、Postgraduate courseが充実している。昨年サンフランシスコのDDW中に行われたSSATのPostgraduate courseに参加し時、Y. Fong教授が胆道癌の講演の中で私の論文を引用してくれました。隣で睡眠中の私の分身を起こし再認識させ親父としての面目を保つ機会に恵まれました。夕方になるとそれぞれの教授が独自の交流会を開き参加者は梯子をしてfriendshipを高めていました。

ヨーロッパには多くの国が存在しますが、やはりアングロサクソン、ゲルマンとラテン系とに微妙に分かれているようです。ヨーロッパでは国といっても日本における県みたいなもので国際学会の参加といっても1～2時間の飛行機で外国？に到着するので、格別面倒臭くないようです。特にユーロが使用されるようになって、一段とお互いの外国意識がなくなっているようです。アメリカと異なる点は、いわゆる教授連が学会を運営し、

(2面へ続く)

（1面から続く）

そして、発表まで仕切っているようです。トップにお願いすれば、それ相応の引き合いもありますが、若い人を育てる上でやや古い体質と思われることも見受けられます。

しかし、我々の発表でもしっかり評価してくれます。英語がsecond languageであることから議論もしやすいのかもしれませんが。また、hospitalityという面でもアメリカよりもヨーロッパの学会の方がスマートで歴史の深さを感じさせることがあります。

さて、アジアでありますが中国には日中消化器外科学術交流会の役員をさせて頂いているお陰でいくつかの都市を訪問できました。以前は学会運営にまで共産党の幹部が顔を出していましたが最近は少なくなった様です。中国の特徴は懇親会などに名誉会長などの偉い人が沢山出席されることでしょう。ここも教授たちが日本以上？に幅をきかせている感じがしました。大連で行われた学会の合間に203高地を訪れました。年老いた案内人が大変きれいな日本語を話していたのには驚きました。北朝鮮拉致被害者の言葉もきれいですが、外国旅行では思いがけないことに遭遇します。

韓国の田舎で講演を依頼されました。ここでも一般演題のスライドはすべて英語で書かれ討論は韓国語で行われていました。今までは日本の方式で医療制度や医学教育が行われてきたが、最近では全て米国式に移行していると言っておられました。

日本人に国際性が求められている現在ですが、教育方法や医療のシステムなどを国際学会で直に学ぶことで国際性のある改革の担い手ともなりうる？と考える今日この頃です。

新ISS/SIC 理事会メンバー

President of the Society and President of the 41st Congress;
J. Rüiger Siewert, Munich, Germany

President-elect:

Masaki Kitajima, Tokyo, Japan

Past President:

Sir Peter J. Morris, London, United Kingdom

Secretary General:

Felix Harder, Pratteln, Switzerland

General Treasurer:

Emanuele Lezoche, Rome, Italy

Editor in Chief WJS:

Ronald K. Tompkins, Los Angeles, USA

Councillors:

Attila Csendes, Santiago, Chile

Obertop, Amsterdam, Netherlands

Kerstin Sandelin, Stockholm, Sweden

Michael G. Sarr, Rochester, USA

Delegated by IAES:

Shiro Noguchi, Oita, Japan

Delegated by IATSIC:

Ronald V. Maier, Seattle, USA

Delegated by IASMEN:

Akira Okada, Osaka, Japan

Delegated by BSI:

Raimund Jakesz, Vienna, Austria

Permanent Guest:

Secretary-Treasurer ISSF:

JayL.Grosfeld, Indianapolis, USA

President of the 41st Congress:

J. Rüdiger Siewert, Munich, Germany

第16回 万国外科学会 日本支部会 議事録

日 時： 2003年11月14日金曜日 午前7時30分から8時30分

会 場： 福岡県 福岡国際会議場 5階 会議場 504

出席者： 20名

阿部令彦、 出月康夫、 北島政樹、 北野正剛、 草野満夫、
小西敏郎、 関川敬義、 田尻 孝、 轟 健、 西田俊朗、
野口志郎、 林 四郎、 平山廉三、 幕内博康、 真船健一、
丸田守人、 村尾佳則、 村田宣夫、 山川達郎、

（五十音順、敬称略）

議 事 録

- 1 支部長（山川達郎帝京大学名誉教授）挨拶
- 2 議事録確認
- 3 万国外科学会学術集会の今後の日程について
2005年：ダーバン
2007年：モントリオール
2009年：アデレード
2011年：未定（日本？）
- 4 中止になったバンコックでのcongress president のSiewert教授がダーバンでの congress president になる。慶応大学北島政樹教授は現在president elect であり、ダーバンではpresident になり、congress presidentとして モントリオールでのISWを主催する。
- 5 World J Surgery のeditor はこれまで日本から出月康夫名誉教授、故馬場正三先生であったが、今村正之教授（京都大学）上西紀夫教授（東京大学）二村雄次教授（名古屋大学）の3先生が推薦され、受理された。
- 6 World J Surgery について：
① 投稿論文数は年間アメリカ40でアクセプト18、日本81でアクセプト17であった。
② 今後IT化していく。ビデオを組み込むことも考慮されている（北野正剛教授）。
- 8 北島政樹教授より：学術集会を2011年に日本開催できるかどうかについて、ピーター・モリス教授（アメリカ）は推薦する、としている。2004年3月のexecutive committee で明確になるかもしれない。日本として誘致に向けて活動していきたい。
- 9 野口志郎先生から、来年（2004年）6月にIAESがウプサラで開催されることがアナウンスされた。
- 10 草野満夫教授よりpan-pacific surgical association についてアナウンスがあった。
- 11 出月康夫先生よりISS/SIC の活性化のために日本から大勢ダーバンの学術集会に出席願いたい、という趣旨の発言があった。

（文責：村田宣夫）

2003年 収支決算書（2003年1月1日～12月31日）

単位：円

ISS/SIC

日本円の部	予算額	決算額	備考
I 収入の部			
会費	900.000	938.400	\$ 通帳→¥ 通帳間預替
広告掲載料	200.000	250.000	
雑収入	0	31.500	
利息	0	2	
当期合計	1.100.000	1.219.902	
前年繰越金	206.112	206.112	
収入合計	1.306.112	1.426.014	
II 支出の部			
会議費	200.000	110.373	2回分
通信費	300.000	143.975	
印刷費	500.000	416.640	ニューズレター;2回発行
文具費	50.000	33.610	
交通費	50.000	114.880	出張旅費
人件費	150.000	120.000	
他誌広告費	100.000	0	
謝礼	0	33.000	
雑費	10.000	10.000	
予備費	150.000	0	
会費送金(本部宛)	0	0	
支出合計	1.510.000	982.478	
収支差額 (2004年繰越金)		443.536	

2004年 予算案（2004年1月1日～12月31日）

単位：円

日本円の部	予算額	備考
I 収入の部		
会費	1.050.000	\$ 通帳→¥ 通帳間預替
広告掲載料	200.000	
雑収入	0	
利息	0	
当期合計	1.250.000	
前年繰越金	443.536	
収入合計	1.693.536	

II 支出の部		
会議費	200.000	
通信費	150.000	2回分
印刷費	450.000	
文具費	50.000	ニューズレター;2回発行
交通費	150.000	
人件費	150.000	出張旅費
他誌広告費	0	
謝礼	30.000	
雑費	10.000	
予備費	60.000	
\$ 通帳→¥ 通帳間預替	0	
支出合計	1.250.000	
収支残高 (2005年繰越金)	443.536	

単位：us \$

US \$ の部	予算額	決算額	備考
収入の部 会費	0.00	0.00	前年中入金済みの為日本支部運営費(為替経費手数料引後)
利息	0.00	15.86	
繰越金	16,427.81	16,427.81	
収入合計	16,427.81	16,443.67	
支出の部			
日本円へ預替	8,000.00	8,000.00	(938.400 日本円、会費収入)
本部寄付	1,000.00	1,000.00	
支出合計	9,000.00	9,000.00	
2004年繰越金	7,427.81	7,443.67	

ISS/SIC 万国外科学会日本支部

監事

田中雅夫



単位：us \$

US \$ の部	予算額	備考
収入の部 会費	11,000.00	日本支部運営費 (為替経費手数料引後)
利息	0.00	
繰越金	7,443.67	
収入合計	18,443.67	
支出の部		
日本円へ預替	10,000.00	日本円の部、会費収入へ
本部寄付	1,000.00	
支出合計	11,000.00	
2005年繰越金	7,443.67	

2005年繰越金

合計 935,121円

日本円通帳 183.536円
米ドル通帳 781.585円
(1\$=105円として)

オキサセフェム系抗生物質製剤
指定医薬品、要指示医薬品^{注1)}

フルマリン®

静注用0.5g・1g, キット静注用1g
注射用フロモキシセフナトリウム Flumarin® 略号 FMOX

注1) 注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

■薬価基準収載 ■「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌」、「原則禁忌」、「使用上の注意」等については添付文書をご参照下さい。®:登録商標

〔資料請求先〕 塩野義製薬株式会社
〒541-0045 大阪市中央区道修町3-1-8

シオノギ製薬

多価・酵素阻害剤 生物由来製品、指定医薬品、要指示医薬品^{注)}

ミラクリッド注射液

MIRACLID Inj. 25,000/50,000/100,000単位
一般名：ウリナスタチン

健保適用

※【警告】、【禁忌】、【効能・効果】、【用法・用量】、【使用上の注意】などの詳細は添付文書をご参照ください。

＜資料請求先＞
持田製薬株式会社
東京都新宿区四谷1丁目7番地
電話 (03)3358-7211(代) 千160-8515

会員動向（2004.2）

会員数	268名
内訳	アクティブメンバー 244名 シニアメンバー 23名 名誉会員 1名

- ・シニアメンバー昇格
大阪医誠会病院 井上喬之先生
- ・退会
大阪掖済会病院 曾和融生 先生

支部活動報告

- 2003.11 日本支部ニュース第17号発行
- 2003.11.12 第16回万国外科学会（ISS/SIC）
日本支部総会（福岡国際会議場）
- 2004.4 日本支部ニュース 第18号（今号）発行
- 2004.4.8 第17回万国外科学会（ISS/SIC）
日本支部総会（リーガロイヤルホテル大阪）



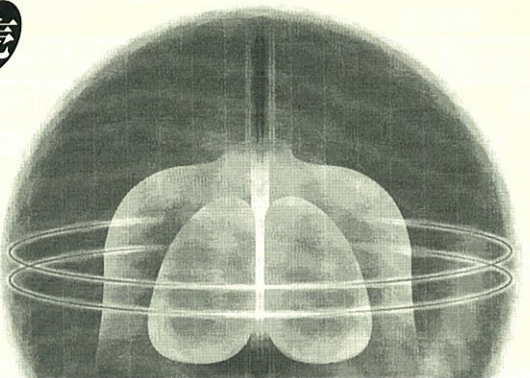
抗悪性腫瘍剤
劇薬、指定医薬品、要指示医薬品[※]

フルツロン 100カプセル 200
Furtulon[®] ドキシフルリジン製剤

注）注意—医師等の処方せん・指示により使用すること。

製造発売元  **中外製薬株式会社**
〒104-8301 東京都中央区京橋2-1-9
 ロシュグループ

2003年10月作成



新発売

好中球エラスターゼ阻害剤

指定医薬品
要指示医薬品[※]

注射用 **エラスポール** 100[®]
シベレスタットナトリウム水和物 ELASPOL[®]

注）注意—医師等の処方せん・指示により使用すること。

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、
詳細は製品添付文書をご参照ください。

製造発売元  **小野薬品工業株式会社**
〒541-8526 大阪市中央区道修町2丁目1番5号 030601

プロトンポンプインヒビター

指定医薬品 **タケプロン** 15・30カプセル 15・30
OD錠 15・30
(ランソプラゾールカプセル&口腔内崩壊錠)

■効能・効果、用法・用量、禁忌・使用上の注意等
については、添付文書をご参照ください。

Takepron ■薬価基準：収載

（資料請求先）
 **武田薬品工業株式会社** 〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
http://www.takeda.co.jp/ (0394・B54)



万国外科学会 日本支部役員

出月 康夫	南千住病院	万国外科学会前会長
比企 能樹	北里大学東病院	前万国外科学会理事
北島 政樹	慶應義塾大学医学部	万国外科学会副会長 日本支部事務局長
山川 達郎	帝京大学医学部附属溝口病院	日本支部長
田中 雅夫	九州大学医学部	監事
今村 正之	京都大学医学部	常任幹事
小林 国男	帝京大学医学部	常任幹事
酒井 滋	帝京大学医学部附属溝口病院	常任幹事
佐竹 克介	日本脾臓病研究財団	常任幹事
嶋尾 仁	北里大学東病院	常任幹事
白日 高歩	福岡大学医学部	常任幹事
高見 博	帝京大学医学部	常任幹事
村田 宣夫	帝京大学医学部附属溝口病院	常任幹事
青木 照明	東京慈恵会医科大学	幹事
冲永 功太	帝京大学医学部	幹事
小原 孝男	東京女子医科大学	幹事
恩田 昌彦	日本医科大学	幹事
川原田嘉文	上野総合市民病院	幹事
北野 正剛	大分大学医学部	幹事
斉藤 和好	岩手医科大学	幹事
佐藤 紀	埼玉医科大学総合医療センター	幹事
高木 弘	J R東海総合病院	幹事
高橋 俊雄	杏雲堂病院	幹事
田尻 孝	日本医科大学	幹事
中尾 昭公	名古屋大学医学部	幹事
中川原儀三	市立敦賀病院	幹事
平山 廉三	埼玉医科大学	幹事
磨伊 正義	金沢大学がん研究所	幹事
松野 正紀	東北大学医学部	幹事
松本 由朗	山梨医科大学	幹事
宮島 伸宜	帝京大学医学部附属溝口病院	幹事
門田 守人	大阪大学医学部	幹事
山岡 義生	京都大学医学部	幹事

編集
後記

我々外科医に関係のある学会、研究会は多数あります。どこの学会・研究会でも所属する医局の若手の発表があれば我々も時間をとって自身の発表はなくとも出席します。医局員と同じセッションで発表される他の施設の演題や別の会場で関心のある発表をいろいろ聞くことになります。日常診療を休んで出席した甲斐があったと感じられたときには本当に来て良かったと思います。また日本・・・学会ではなく、地域の医師会なり、有志勉強グループ、製薬メーカーがその道の権威の方々に依頼して特別講演を開くことがあります。平日の夜に開催されることが多く、診療後あわただしく出かけます。これらは多少自分の専門とは異なっても聴きに行きますと結構ためになることが多いので他の行事などと重ならない限りすべて出席しています。大きな学会の時と同様に、学問の進歩についていってぞ、という充実感、快感を味わうことは結構あります。その他自分が口演することもあり、外科医に限らないかも知れませんが、われわれは学会・研究会に頻繁に出かけなければならないようです。◆国際学会は国内の学会とどこことなく勝手が違います。英語の発表を聞いて頭がいっぱいになっていることも関係するかもしれませんが、国内の学会以上に実にホットな話題に触れているという感激があります。ISSでは世界のトップクラスの外科医に直接お目にかかれるというのありがたいことです。嶋田先生がお書きになっているように普段は縁遠いと思われた日本の著名な先生方と親しくお話する機会も不思議とできてきます。SARS騒ぎで万国外科学会は1回中止となり、来年4年ぶりに行われます。アフリカ大陸の南端で国際学会が開催されるのは稀なことです。普段以上に趣の変わったISS学会になるのではないのでしょうか。（村田宣夫）